

日刊 動力千葉

80.7.31

No. 496

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)三二五八・九(公衆)三三三二七二〇七

「4・17襲撃」を居直り、「デマと暴力とタレコミ」を路線化した『動力車新聞号外(その35)』

二里塚・ジェット闘争貫徹! 「国鉄35万人体制」粉碎!



ファシスト的・セクト的体制を全面崩壊させた「デマ号外」

二度にわたる「再建」デッチ上げ策動の破産に慌てふためき大混乱におちいった「本部」反動分子は、遂に『動力車新聞・号外』(その35)において、動力千葉へのより一層凶暴な襲撃・タレコミ等を路線化することを公言した。われわれは断じてこれを許すことはできない。

「動力千葉」反社会的ゴロツキ集団とは、何ごとだ!

この「号外」こそ、「本部」反動分子による今日の動力のセクト的変質・引きまわしの行きつく先を示している。

「号外」の大見出しで、動力千葉に対し、遂に「反社会的なゴロツキ暴力集団」だと規定し本文の中の至る所で聞くにたえない悪罵をなげかけている。

いったいこれは何を意味するのか! 彼らは遂に「動力千葉はどんな手段を用いてもよいから社会的に抹殺すべきだ。労働組合として扱う必要などない。ゴロツキをやっつけるつもりでやれ!」と絶叫しはじめたのだ。いやしくも「動労」という伝統ある労働組合、しかもその顔であり象徴である組合機関紙で、「権力用語」まで借りてきてこのような主張を公然とかかげるに至っている現実には怒りを禁じることができない。

こういう発想、こういう襲撃のための理論と実践こそ、かつて、ナチス・ヒトラーが「ユダヤ人は社会のゴミクズだ」ときめつけてあの大虐殺を行い、国家権力や右翼が闘う人民に対し「アカ」「過激派・左翼暴力団」「非国民」「虫ケラ」等々ありとあらゆる差別的・反動的きめつけをもって残酷な襲撃と虐殺をくり返した居直ってきた、あの許すことのできないやり口そのものではないか。

さらに、今日革マル派が機関紙「解放」で繰りかえしている「ウジ虫・青虫・ゴキブリなどふみ潰せ」なる対立党派襲撃の理論と実践、「スパイ・ゴロツキの延命の場」三里塚闘争は反社会的、だから解体せよ」と称する三里塚敵対の理論と実践を、そっくりそのまま動労の労働組合の理論と実践として全面展開しようというものの以外の何ものでもない。

動力津山大会以降一挙に全面化し、「水本」デマ運動で体質化させられようとしている動力のセクト的変質が、今日、このような極右翼的路線にまで達しようとしている事を怒りをもって弾劾しなければならない。

「4・17襲撃」について 真正面から答えてみよう!

「号外」は、4・17襲撃を手引きした革マル・スパイ分子嶋田誠が、今や全国の動力内外の労働者・人民の激しい怒りと憎しみに包囲されて「4・17の責任」を追及されている事に対し、デマをおりませて悲鳴をあげている。だが、考えてもみよ。自らの不正義故に論理も規約規則もなげすて、ただ暴力的襲撃のための襲撃を目的に、四月十七日「労働安全衛生委員会」を開催中の支部役員・一〇名余を白鳳公然と、あらゆる武器を持って、一五〇名で計画的に襲撃し、残酷なテロ・リンチで、片岡支部長に頭蓋骨骨折の重傷はじめ、全員に重軽傷を負わせたあの許すことのできない「4・17津田沼襲撃」しかもそれを手引きし、「当然だ」と組合員の前で居直っている革マル・スパイ嶋田誠が、その責任を大衆的に追及されるのは全く当然すぎるほど当然のことではないか。

「号外」は、「4・17とは何か。何故嶋田誠が責任を問われているのか」に真正面から答えることができずに、動力千葉がやっていないことまでもデッチ上げ、論点を逃げまわり、「動力千葉には、問答無用、何をやったらいいんだ」「4・17をまたやるぞ」と居直っているのだ。

焦り凶暴化する反動分子を許さず、動力の戦闘的再生をかちとろう!

過日、「本部」反動分子が、破廉恥にも、この「号外」を千葉県労連傘下の組合に配布してくれと、哀願して歩き、このデマビラぶりに目見てあきれかえった関係者全員から一笑にふされてスゴスゴと退散したことは全く当然のことである。「再建」策動破産のまま八月全国大会を迎えねばならない「本部」反動分子は今、とりみだし、焦り、凶暴化している。この「本部」反動分子とスパイ・裏切り分子をさらに追いつめ、動力大改革へむけ前進しよう。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ!